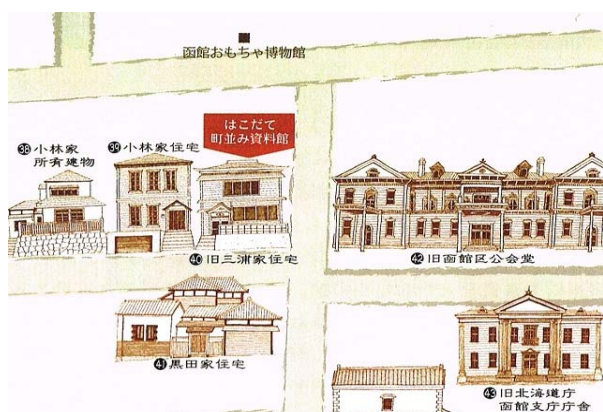


函館の伝統的町並みの紹介

2015年7月、はこだて伝統的建造物散策マップを作成しました。A3判で裏表には、函館西部地区に残る伝統的建造物のイラストを、裏面資料には54件の伝統的建造物と11件の景観形成指定建造物を紹介したものです。

イラストは函館在住の画家、東豊司さん、解説は函館市の花岡さえ子さん、マップデザインは有限会社彩紋の協力によるものです。



はこだて伝統的建造物散策マップ (部分)

天然の良港を有していた函館は、1859(安政6)年、横浜・長崎とともに日本最初の国際貿易港として開港しました。

開港とともに、函館には多くの外国人が居留し、諸外国の文化がもたらされ、当時の函館市民に強い影響を与えました。領事館、教会などが函館山の麓、現在の元町など西部地区に建てられ、異国情緒豊かな町並みが形成されました。

また函館は度重なる大火に見舞われ、その都度、火災に強い町づくりを目標に復興してきました。

大正期になると鉄筋コンクリート造の建物も多く建てられるようになり、日本で最初に建てられた鉄筋コンクリート造のお寺が残っています。

諸外国文化の中で育まれてきた市民意識を表す、洋風様式、1階が和風で2階が洋風という上下和洋折衷様式の建物も多く建てられ、現在も当時の姿を残しています。

散策マップには、私自身が全国各地の伝統的な町並みを歩いた際に各地のマップを参考に、散策しやすいルートを考えて番号を付しています。

諸外国文化の流入と度重なる大火をくぐりぬけ、今も残る函館西部地区の異国情緒漂う町並みを楽しんでいただける資料です。

函館町並み資料館の開設

函館町並み資料館は、函館市が文化財保護法に



はこだて町並み資料館
(旧三浦家住宅)

基づき伝統的建造物に指定した「旧三浦家住宅」(元町10番)の一部を開放したものです。

この住宅は1922(大正11)年に建築された木造2階建て和風住宅で、人気の旧函館区公会堂に近く、数多くの伝統的建造物が並ぶ「港が丘通」に面して建っています。

2014年7月に、この住宅を自宅として購入し、資料館として、翌年4月に開館しました。公開しているのは居住スペースを除く1階居間の和室3室などです。

特徴は、和風の玄関屋根(起り破風)、格子付き横長窓で、外観は玄関側が押縁下見板張りで、東西の外壁は簾子(ささらこ)下見板張り、大正時代に見られた、函館独特の町家住宅の建築様式の特徴を見ていただくことができます。



起り(むくり)破風の屋根が特徴の玄関

資料館には、休暇を利用して訪れた全国約80ヶ所の伝統的建造物群保存地区の資料や写真なども展示しています。

また、縦120センチ、横3メートルの1882(明治15)年に撮影された西部地区の町並みの写真屏風も見ることができます。

公開時間は、火・水曜日を除く、午前10時から午後3時まで、入場料は100円で、小中学生は無料としています。なお、冬期間(10月から3月)は休館しています。